

2018年欧州ロード・レース研修について

熊本市立千原台高等学校 水上 隆助

今回の2週間に及ぶ研修は、自分の競技人生で初の海外遠征となりました。当初は、自転車競技の本場である欧州のレースと日本のレースのレベル差や、食事や文化・環境の違いなど、不安なことばかりでしたが、その全てを実際に経験して多くを学ぶことが出来たと考えています。

この度滞在したベルギー王国は、日本と比べると非常に涼しく、空気がかなり乾燥していました。日本に帰国した時は、サウナに入ったかのような感覚です。また、雨は日本のような土砂降りではなく、静かな冷たい雨という印象でした。夏でも羽織るものは必須です。

それから食事は基本的に、朝は薄くスライスしたパンと数種類のハム・チーズ、バター・ジャム・チョコレート、などにオレンジジュースといった組み合わせが毎日続きます。野菜が殆どないのが、個人的につらい部分でした。後は無糖のシリアルと牛乳、ヨーグルトなどもあります。

レースのない日の昼食は毎回レストランに行き、日本人でも比較的食べやすいもの、ハンバーガーやステーキなど、値段的には贅沢なものを食べました。一方でレース前の昼食はホテルで茹でて頂いたパスタにソースをかけて口に入れました。

夕食は毎日ホテルでとり、日毎に代わる簡単な料理を食べました。口に合う、合わないは勿論ありましたが、順応するという意味でも残さず食べました。

ベルギーにきてからの3日間は、ローラーとロード練習を行いました。まずは時差ぼけを直して環境に順応することに集中します。右側通行や、欧州に多いロータリー式の交差点に慣れること、二列走行などもロード練習中に行いました。長くても練習は2時間半ぐらいで終わりました。後はバイクの洗車・整備、地元の自転車店やスーパー等での買い物などに時間を当てる事が多かったです。

レースは8月12日、15日、18・19日、21・22日の合計6回、今回はいずれもスタートは午後で、距離は80~120km程度の周回コースでした。12日のレースは完走出来たものの内容も順位も悪く、15日と18日はハイスピードな集団からドロップして、DNFが続き、前半戦は本場のレースについていく事が出来ませんでした。しかし、結果の出なかったレースから学ぶものも多く、どこが課題かを反省して、次に活かすことを心掛けました。19日のレースも逃げとの差が縮まらず、完走は出来ませんでした。前より積極的な走りが出来たと思います。そして最後の2連戦は16位、11位でゴールし、前半戦とは違い集団前方で積極的に動くレースをしました。

この2週間は、競技人生の中でも意義のある、とても貴重な経験となりました。個人的な本場の選手との実力差だけでなく、根本的なレースのスピード、レース展開の違い、大会の運営の仕方、地元民のレースに対する姿勢や報酬の大きさなど、日本との様々な違いや差を、直接体験しました。そしてそれが、今後の競技人生で大きな役割を果たすと考え

ます。さらにこの経験を、後輩や周りの仲間と共有し、今後少しでも本場のレースを意識して走る選手が増えたらと思います。

改めてこの研修事業に参加させて頂けたこと、協力して下さった方々に感謝します。